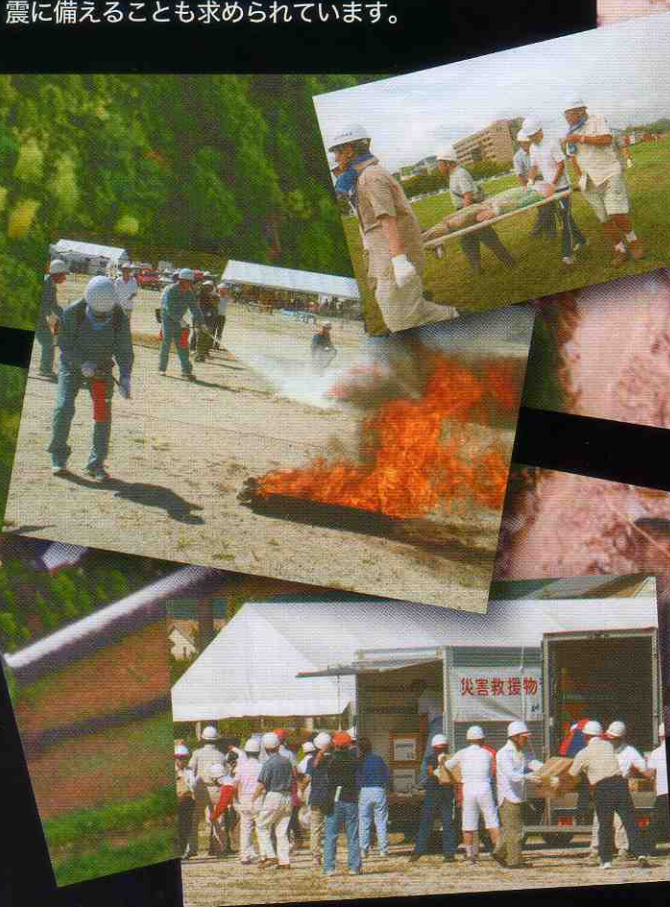


突然の災害

その時あなたに何ができますか？
何の備えがありますか？

平成11年(1999年)6月29日、中国地方に停滞した梅雨前線による集中豪雨によって発生した大規模な土石流と、がけ崩れ災害。広島市では20名もの尊い命が奪われ、負傷者45名、家屋の全半壊116棟という甚大な被害が発生しました。広島県内の土砂災害危険箇所は、全国で最も多くおよそ32,000箇所のにぼります。このうち、およそ6,000箇所が広島市内にあり、県内で最も多くなっています。

川や海、周囲の山々は、広島市に水と緑に恵まれた都市景観を与える反面、洪水や高潮、土砂災害などによる災害を引き起こす危険性があります。また、新たに発表された「南海トラフ巨大地震」などの地震に備えることも求められています。



広島市では、防災意識啓発用 DVD を制作。
各地で行われる防災研修などで上映します。

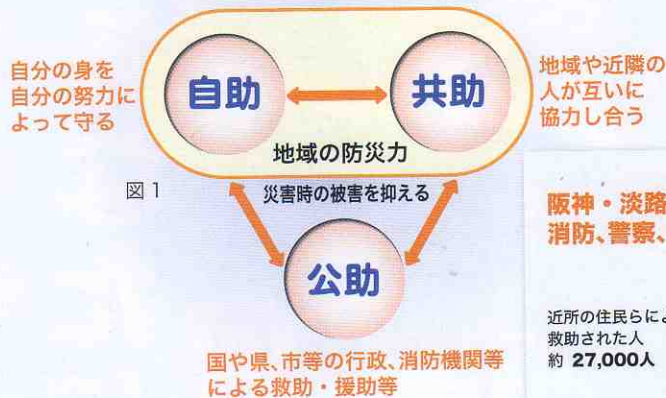
DVD 上映時間15分

自ら考え、学び、行動する 防災まちづくり 広島

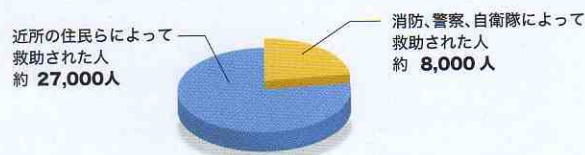
DVD
ポイント-1
公助には限界があります。自助と共助の意識を高めることが重要です。

災害に対する取り組みには、「自助」・「共助」・「公助」の3つの柱がありますが(図1)、とりわけ「自助」と「共助」が重要になることは、右の阪神・淡路大震災における救助事例を見れば明らかです(図2)。公助には限界があり、「自分たちの地域は自分たちで守る」という自主防災の意識と自覚が重要になってきます。

自助・共助・公助



阪神・淡路大震災における市民による救助者数と消防、警察、自衛隊による救助者数の対比



出典：大規模地震災害による人的被害の予測、自然災害科学

DVD
ポイント-2
非常時に起こりやすい“心の罊”。
災害時には、自ら正確な防災情報を入手し、正しい判断をくだすことが求められます。

避難行動が遅れる原因に、心理学でいう『正常性バイアス』があります。なるべく危険を感知したくないという心の仕組みです。また、周囲の人と同じ行動をとることで安心する『同調バイアス』にも気をつける必要があります。今まで何もなかったから(正常性バイアス)、みんなが逃げないから(同調バイアス)大丈夫と思わず、避難勧告が出た場合は、迷わず直ちに避難行動を起こしましょう。



DVD
ポイント-3
行政と市民、企業が協働することで、地域の防災力が向上。日頃の取り組みが重要です。

災害図上訓練(DIG)やハザードマップ(災害予測図)づくりをはじめ、各地で防災まちづくりを目指した、さまざまな自主防災活動への取り組みが活発化しています。いざというときに備えた日頃の意識と普段からの取り組みが、あなたとあなたの大切な人の命を守ってくれます。

緊急時、メールでいち早く、
防災情報をお届けします。

避難に関することなど緊急かつ重要な情報を時間差なく正しく知っていれば、慌てることなく冷静に、迅速に、最善の対処ができます。生死を分けるかもしれない、緊急の情報。広島市防災情報メールに登録することで、緊急時にあなたに配信します。

広島市防災情報メールへの登録は
こちらから

登録用メールアドレス

entry@k-bousai.city.hiroshima.jp

その他詳細は広島市ホームページで御確認ください。

登録を希望される方は、配信を希望する携帯電話、またはパソコンから以下の登録用メールアドレスに空メール(件名や本文のない電子メール)を送ってください。



二次元バーコード対応携帯電話をお持ちの方は、こちらから登録用メールアドレスを取得できます。



企画 制作 広島市消防局
制作 協力 NHKプラネット中国支社